



TITLE:

京大広報 No. 492

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 492. 京大広報 1995, 492: 1042-1049

ISSUE DATE:

1995-10-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209141>

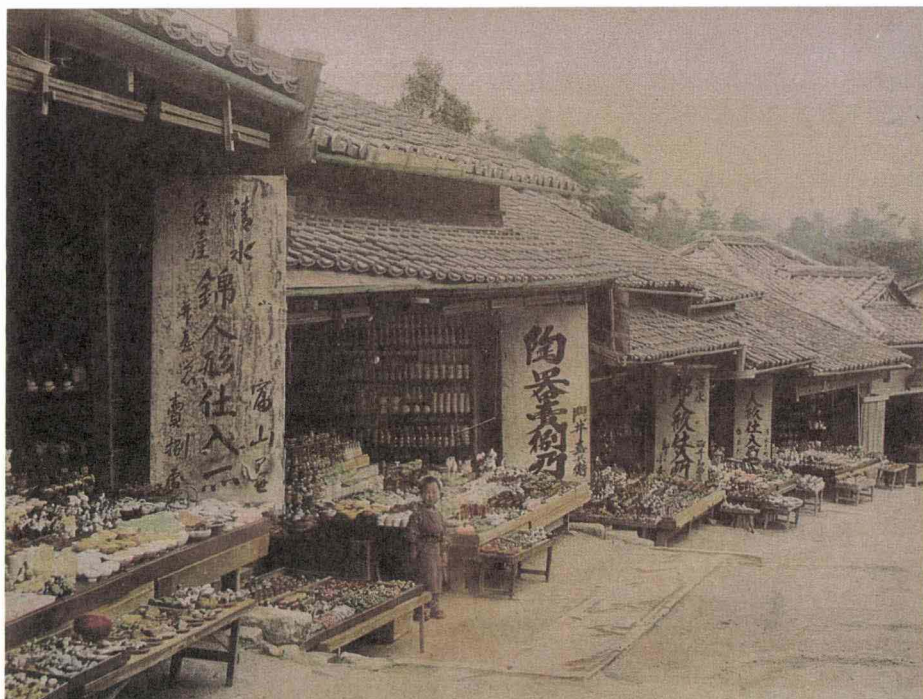
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 492

京都大学広報委員会



京都三年坂の陶器店（明治後期） —関連記事本文1047ページ—

目次

<紹介>

オンラインユニバーシティ実験

—マルチメディア通信の共同実験—1043

—京都大学の百年（第12回）—

京都大学キャンパスの創設1043

日誌1046

平成7年度附属図書館展示会

「幕末・明治期古写真等資料展—忘れ

られた日本の風景、風俗—」の開催1047

計報1047

<コラム>

一石二鳥をねらって

坂東尚周1048

<随想>

学部新設に携わって

名誉教授 寺田 亨1049

<紹介>

オンラインユニバーシティ実験

—マルチメディア通信の共同実験—

NTT のマルチメディア通信実験で提供されている ATM 回線を利用して京大、阪大、および早大の教室を結び、データベースやプレゼンテーション資料など計算機に蓄積された資源を活用する遠隔講義の公開実験を行った。講義の進行を支援するシステムの操作性や映像・音声の品質については改良が必要であるが、大学の講義の交換、大学からの情報発信など、今後の社会との関わりにおける大学のあり方に問題提起を行ったものである。

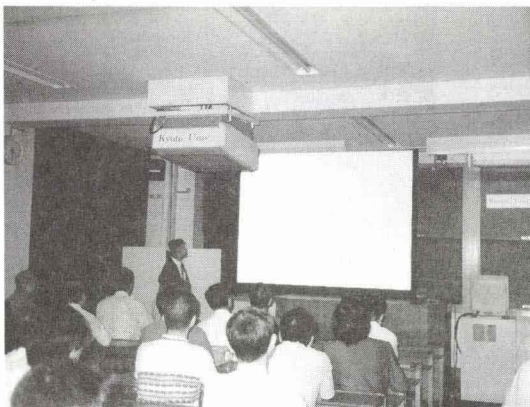
全国の大学教授有志らで構成している「21世紀の情報通信を考える会」では、日本の将来の情報通信のあり方に関して提言し、研究・教育を通して寄与していこうとしているが'95年秋からはNTT のマルチメディア通信実験に参加して共同で研究することにした。この研究には18大学、二つの企業の研究所が加わっており、超高速ネットワーク、超並列処理、先端的研究・教育支援システム、情報ベース、ネットワークソフトウェアの五つの課題で研究している。京都大学においては、工学部情報工学、同附属高度情報開発実験施設、電気工学系、数理工学、大型計算機センター、情報処理教育センターに所属する教官有志が参加している。

去る7月17日には、本学工学部情報工学教室講義室、大阪大学基礎工学部情報工学科演習室、早稲田大学理工学部 OLU プロジェクト室の3か所を、m-bone と称しているネットワーク構成によって、パブリックドメインの映像・音響放送システムを利用して接続し、各サイトからのプレゼンテーション、マルチメディアオンデマンドシステムや電子図書館、ニュースオンデマンドシステ

ム、ビデオオンデマンドシステムなど、それぞれのサイトから提供されたシステムの遠隔地からの利用実験を公開で行った。3か所とも100名あるいはそれ以上の参加者があり、熱心に実験を見学されていた。また、テレビや新聞によっても報道された。

これらの実験は、通信網によって時間と空間の制約を取り除き、遠隔地においても大学の講義や研究指導を受けたり、図書館などの資料の閲覧や情報の収集ができるなど、高度化する情報通信と情報処理の応用の新しい可能性を示したものである。また、本学において今年度の補正予算によって進められている京都大学統合情報網 (KUINS) の超高速データ通信網の建設に関しても、貴重な経験を与えてくれた。

本研究のような新しい技術やシステムを実際に応用するためには、技術の面だけではなく、大学の単位互換などの制度面、あるいは情報公開に伴う著作権や版權などの知的所有権をはじめとする各種の問題を、社会的合意の下に、解決することが必要である。多様化する今後の社会における大学のあり方とも関連して、関係の方々のご意見ご教示を賜りながら共に考えていくことができれば幸いである。



(工学部)

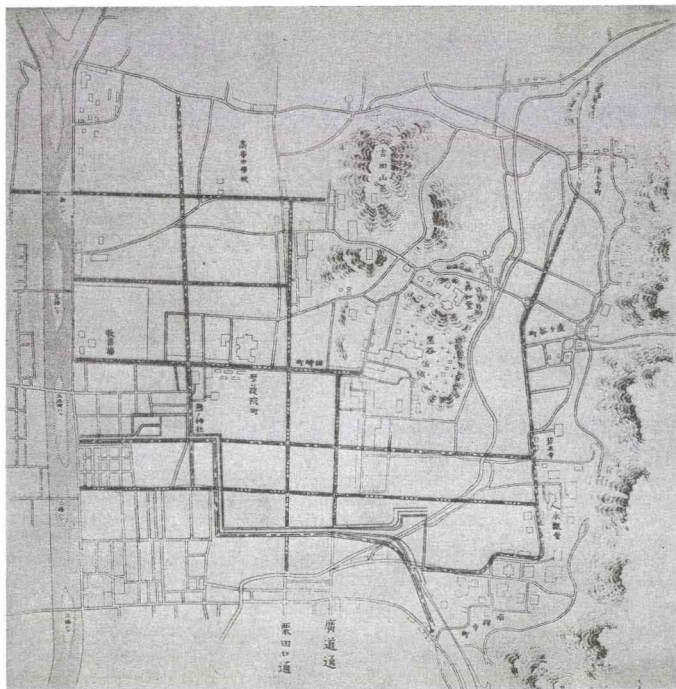
—京都大学の百年 (第12回)—

京都大学キャンパスの創設

キャンパス創設のはじまりは、第三高等学校が明治19 (1886) 年11月に大阪から京都に移転が決定

されたときにさかのぼる。現在の吉田本部地区は、明治30（1897）年9月に理工科大学をもって開校するときにこの三高吉田学舎を転用し、三高そのものは現在の総合人間学部（旧教養部）などの校舎がある、東一条通をはさんだ南の敷地に移転したのである。したがって、興味深いことに、現在の京都大学キャンパスの中枢をなす吉田地区全体の空間構成は、当時の三高のキャンパス計画が決定していると言っても過言ではない。

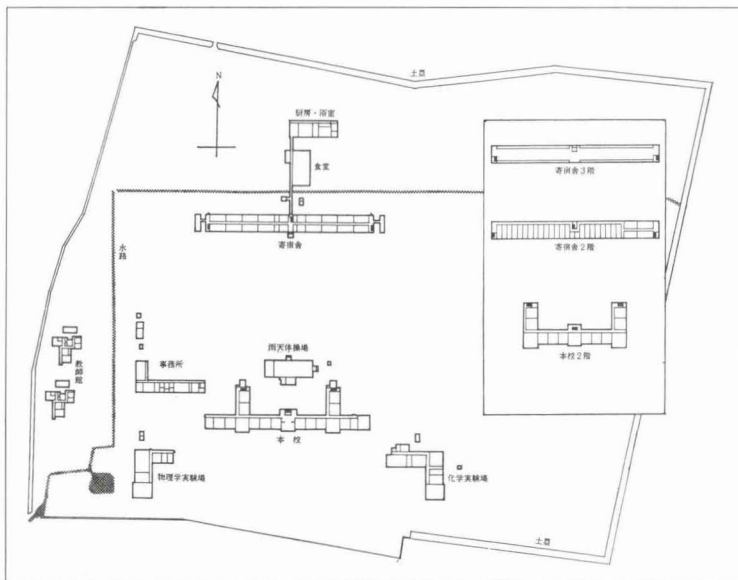
大阪から第三高等中学校を京都に移転するとき、キャンパス用地の候補として、仁和寺・妙心寺付近、大徳寺付近および吉田の3地区が比較検討され、敷地の水質の良否によって、「至極の清地」である吉田地区が選ばれている。キャンパス用地を現地検分にくた当時の文部大臣森有礼らの談話が報じられた。「水質純良なるうへ、東の方の吉田山を除く三方は皆田野にして、遙か西に鴨川をひかえ、北に百万遍知恩寺ありて至極の清地にて、白川村の農夫等及び牛馬の通行するのみ。此地は学業中目に耳に障害あることなし」（『日出新聞』明治20年1月4日付）。すなわち当時の吉田地区には、吉田山、聖護院、熊野神社など宗教施設と森と小集落が点在し、山中越、白川村から賀茂川と高野川の合流点にあたる今出川口もしくは出町口へいたる道とその沿道に17世紀後半荒神口から移された知恩寺の境内、また同じく白川村から吉田山の北辺を通り鴨川を渡る荒神橋にいたる道が、緩やかに川に向かって傾斜する水田地帯を横断していた（『改正京都区分一覧之図』明治9（1876）年）。第三高等中学校用地は旧尾州藩邸跡であり、慶応4（1868）年の「改正京町御絵図細見大成」などには、この地区にはそのほか知恩寺の東に、尾州藩邸と道をはさんだ北隣に土州屋敷、鴨川に面して九条殿下屋敷の記載があり、幕末から明治初年には、田園の中に集落や社寺の他に広大な武家貴族の邸宅がおそらく土塀や樹木に囲まれてモザイク状に点在していたのであろう。第三高等中学校の西辺は尾州藩邸敷地を限る境界で、現在の東山通に沿った本部キャンパスの石垣はその名残であるといわれる。また敷地の北および東の境界もおそらく尾州藩邸の境界に相当し、敷地境界の土塀はその名残であり、現在のキャンパスの柵塀の基盤部におそらく相当する。このように敷地形状にすでに歴史的な記憶の痕跡が認められるが、空間構成に関して決定的なのは、第三高等中学校として更に計画された敷地全体構成と建物群の配置である。



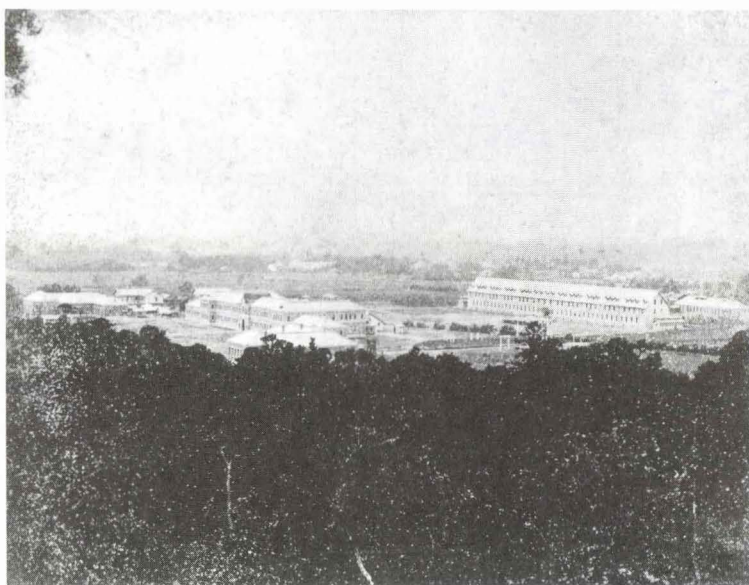
上京区元三十四組新市街計画道路之図（『京都府百年の資料』第7巻所収）

明治25（1892）年3月印刷、発行の陸地測量部二万分の一地図には、東西に延びる前述の白川村・今出川口の道と、その南に平行する吉田神社参道（東一条通）にはさまれた一角に、校舎群のブロックが見える。明治22（1889）年京都市市政施行頃の「上京区元三十四組新市街計画道路之図」（『京都府百年の資料』第7巻所収）には、鴨川以西の洛中と同じ東西南北の方格型街路パターンが吉田地区に計画されている。これらの道路はその断片的な一部を除いては、ほとんどが実現されていないが、吉田地区に整正な空間秩序を計画的に示したものとして注目される。吉田地区に優越する方向軸として、吉田神社参道や熊野神社から鴨川へと延びる参道と門前集落は、近世の鴨東地区一般に見られた

東山から洛中への東西軸構成の例であるが、それにもかかわらずこの地区に南面する南北軸優先の空間構成を持ち込んだのは、南面した居住環境条件をも考慮した、平安京の宮殿構成や寝殿造以降の邸宅の建築構成の伝統であろう。第三高等学校の構成は、吉田神社の参道に向かって南面し、ほぼ正確に南北軸上に校門、本校、雨天体操場、寄宿舎等を配置し、この南北軸構成を壮大に展開するかのよう、その東西に物理学実験場と化学実験場などを配置している。本校は、当時洋風の本格的建築に適用された煉瓦造の2階建、一部1階建で、2層部の中央と両端部の壁面を突出させ、とくに中央部は、アーチ型の開口部と縦長窓を積層し、妻飾り風の装飾小壁ペディメントを上部に突出させ、腰折れ形式のいわゆるマンサール屋根を載いている。両端の壁面突出部は、東西の正面棟と南北に交差貫入する棟の端部にあたり、上部に寄棟屋根型をのぞかせ、さらに東西最端部に付加された1層部が建物の長さを強調し、前述の中央部の玄関構成によって全体の中心性が強調されている。本校の前面で南にずらせて配置された物理と化学の実験場が、全体構成の南北軸性と東西の拡張性をさらに強調している。これらの建物群が



第三高等学校吉田学舎建物配置図



吉田山から望んだ当時の建物の全貌

寄贈したと伝えられる「クスノキ」が植えられてあった。

この空間構成は、西洋近世の記念的建造物に典型的であった透視的軸に基づくシンメトリーの構成にほかならないが、構成の重要な要素であるオープンスペースは、あたかも「空間恐怖」に取り付かれた

完成される明治22(1889)年までには、2万本近い植樹が行われ、キャンパス南正面の、吉田神社にいたる石垣等の外構、現在復元されて大学の正門になっている表門などが整えられた。このキャンパスが、明治30(1897)年9月にまず理工科大学をもって開校された京都大学のキャンパスとして、建物施設ともどもそっくり引き継がれたのである。そもそも第三高等学校創設時にすでにその将来を大学にするべく予見されていたとも伝えられている。旧本正面には、明治35年頃すでに現在の本部棟前を飾る、徳富蘇峰が

かのように、和風庭園の手法にならって植樹で埋め尽くされていく。それは、空間的な擬洋式もしくは和洋混合と言うことができ、理性的と言うよりはむしろ浪漫的な感覚的構成であり、これがキャンパス全体の雰囲気として、その後ながく受け継がれるのである。

このように、第三高等学校創設から、キャンパスを引き継いだ京都帝国大学の中心部は、現京大本部構内の空間構造の骨格を決定し、さらにその他の地区の空間構成における一般的類型をほぼ確立していた。その後、第三高等学校、法科、医科、文科大学が、空間的にはほぼ現在のキャンパス全体に亘って典型的に展開されて行く。それはしかも、明治40（1907）年に大学建築部として営繕組織が設置される時期までに、日本各地に高等学校や大学を設計してきた文部省の直轄事業としてであった。大学の本部棟になった旧第三高等学校の本校は大正元（1912）年10月に焼失、その跡地に同4（1915）年、現在の本館本部棟が当時の最先端技術による鉄筋コンクリート構造で建築されるが、その基本的な空間構成は前例を踏襲したものである。

（百年史編集委員会 加藤邦男）

日 誌

（1995年9月1日～9月30日）

- | | |
|---|--|
| 9月5日 総合人間学部公開講座「人間・宗教・文化—人間の生き方を考える—」（8日まで） | 13日 同和・人権問題委員会 |
| 9日 超高層電波研究センター公開講座「電波で探る宇宙と地球」 | 〃 国際交流委員会 |
| 11日 平成7年度京都大学職員研修主任研修（14日まで） | 〃 国際交流会館委員会 |
| 〃 スイス連邦 Luc Edouard Weber ジュネーヴ大学長他1名来学、総長及び関係教官と懇談 | 25日 学位授与式 |
| 12日 オランダ王国 J.M.M. Ritzen 文部大臣他7名来学、総長及び関係教官と懇談 | 26日 評議会 |
| | 〃 大学院審議会 |
| | 〃 平成7年度京都大学職員研修語学研修（英語・中級コース）（12月8日まで毎週火・金曜日総40時間） |



平成7年度 附属図書館展示会

「幕末・明治期古写真等資料展—忘れられた日本の風景、風俗—」の開催

本館では、標記展示会を開催いたします。

この資料展は、国立大学図書館協議会の主催により、長崎大学附属図書館の所蔵する幕末・明治期の日本各地の貴重な古写真をパネルにより展示するものです。

この中には初代帝国ホテル、神戸元町通り、祇園四条通り、清水のみやげ物店等々幕末・明治の日本各地の珍しい写真約100点のほか、本館の所蔵する関連資料も展示いたします。

なお、この写真展に併せて下記講演会も開催いたしますので、多数ご来聴下さい。

展 示 会：「幕末・明治期古写真等資料展—忘れられた日本の風景、風俗—」

会 期：平成7年11月6日（月）～11月12日（日）

月～金 午前9時30分～午後5時

土・日 午前10時～午後4時30分

（入場は閉室30分前まで）

会 場：附属図書館展示ホール（3階）

講 演 会：「写された幕末・維新」

講 師：国際日本文化研究センター

白幡 洋三郎 助教授

日 時：平成7年11月8日（水）

午後3時～4時30分

会 場：附属図書館 AV ホール（3階）

（備考） 展示会、講演会とも一般公開で入場は無料です。

（附属図書館）

計 報

小林 恒 明 教授

総合人間学部教授 小林恒明 先生は、9月21日逝去された。享年62。

先生は、昭和32年北海道大学農学部農業生物学科を卒業、同大学助手を経て同48年本学教養部助教授に着任、同63年同教授に就任された。平成4年10月本学教養部の総合人間学部への改組後は、生物・地球圏環境論講座を担当された。

先生は動物学、なかでも野ネズミ類を中心とし

た小哺乳類の系統分類学・生態学に関する研究において、北海道にカラフトアカネズミの存在することを発見されるなどの優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、細胞遺伝学・核学の分野においても多大の貢献をされた。

また、先生の野外調査研究活動の舞台は、日本全国から、広く中国、東南アジア諸国におよび、日本哺乳類学会においては国際交流委員等の要職にあって活躍された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（総合人間学部）

